

株式会社マルマエ

2026年8月期

決算 補足資料

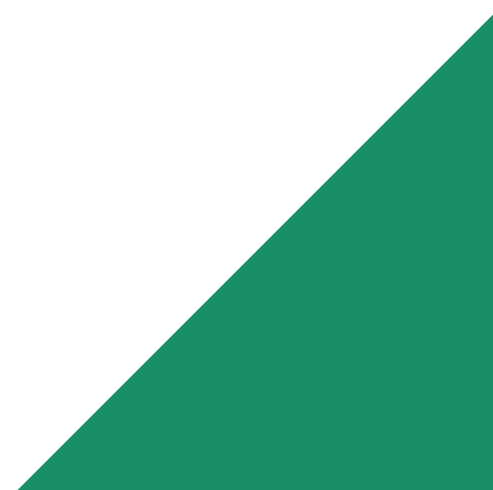
2026年10月9日

道を究め、未知に挑む。

marumae

総合力で未来を拓く

半導体・FPD製造装置 真空パーツメーカー



1. 決算概要

PL分析

※2026年8月期連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年8月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。これに伴い対前年同期増減率についても反映後の数値にて計算しております。

PL

	2025年8月期 累計期間		2026年8月期 累計期間		対前年同期 増減率 (%)
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	
売上高	11,403	100.0	20,434	100.0	79.2
売上原価	7,855	68.9	13,788	67.5	75.5
売上総利益	3,548	31.1	6,646	32.5	87.3
販売管理費	1,480	13.0	2,515	12.3	69.9
営業利益	2,067	18.1	4,130	20.2	99.8
経常利益	1,900	16.7	3,904	19.1	105.5
特別損益	△0	0.0	1,001	4.9	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,344	11.8	3,464	17.0	157.6
EPS (円) ※1	53.12	—	132.56	—	—

※1・・・2026年4月1日付で実施した株式分割(1:2)が、前期首に実施されたと仮定して算定

Point

売上高

- 20,434**百万円
(セグメント別の詳細はP5～)

売上 原価

- 材料費：**6,680**百万円
- 外注加工費：**1,662**百万円
- 労務費：**3,206**百万円
- 減価償却費：**1,045**百万円

販売 管理費

- 販管人件費：**1,075**百万円
- のれん等償却額：**388**百万円
- 租税公課：**193**百万円
- 研究開発費：**155**百万円

営業外 費用

- 支払利息：**235**百万円

特別 利益

- 補助金収入：**1,013**百万円

1. 決算概要

B/S分析

※2026年8月期連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年8月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

B/S

(百万円)

	2025年8月期 会計年度末	2026年8月期 会計年度末
流動資産	10,477	15,959
現金及び預金	4,252	7,535
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	3,407	4,357
固定資産	15,391	15,587
土地・建物及び構築物（純額）	4,687	4,847
機械装置及び運搬具（純額）	4,387	4,039
のれん等	5,459	5,071
流動負債	4,623	5,493
有利子負債（短期）※1	1,506	740
固定負債	13,105	9,180
長期借入金	12,000	8,210
負債合計	17,728	14,674
純資産合計	8,140	16,872
総資産	25,869	31,546

※1・・・有利子負債（短期）：短期借入金＋1年内返済予定の長期借入金

Point

資産 31,546百万円

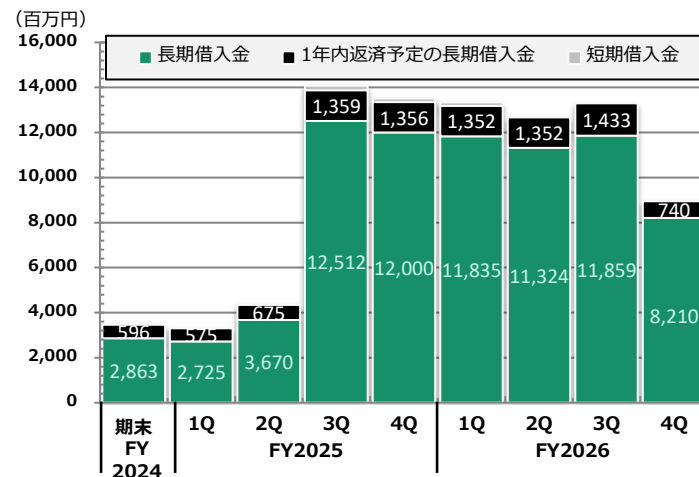
- ・有形固定資産：9,984百万円
- ・現金及び預金：7,535百万円
- ・のれん等：5,071百万円

負債 14,674百万円

- ・長期借入金：8,210百万円
- ・買掛金：1,789百万円

純資産 16,872百万円

- ・利益剰余金：8,050百万円
- ・自己資本比率
31.5% → 53.5%



2. セグメント情報

セグメント分類



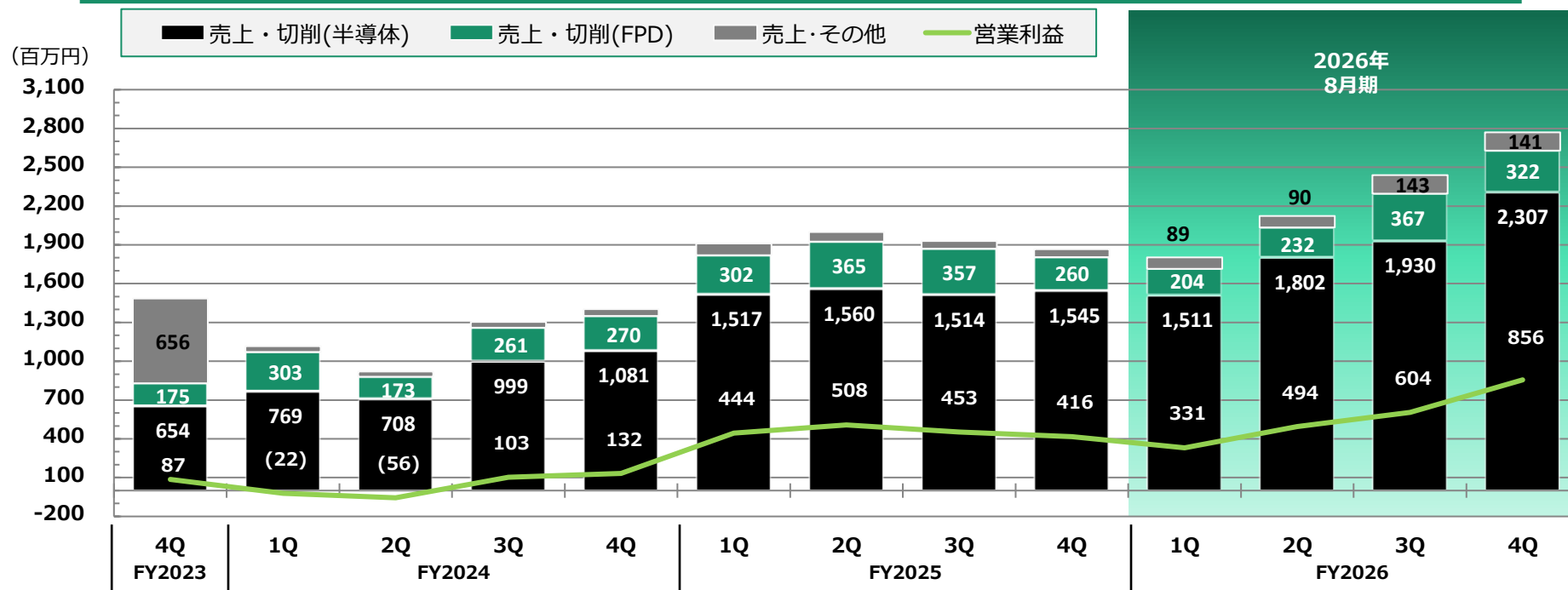
- マルマエ 事業
- 半導体・FPD・その他



- KMAC (KMアルミニウム) 事業
- IT器材・半導体装置部材・基礎素材

3. セグメント別概況

四半期業績の推移（精密部品事業）



Point

半導体分野

7,551百万円（対前年同期：23.1%増）
 ・ 四半期売上高は過去最高を更新
 ・ 四半期受注も継続して過去最高更新

FPD分野

1,127百万円（対前年同期：12.4%減）
 ・ 売上回復。OLED向け好調

その他

464百万円（対前年同期：62.3%増）
 ・ 防衛案件引き合いあるも、余力なく進展なし

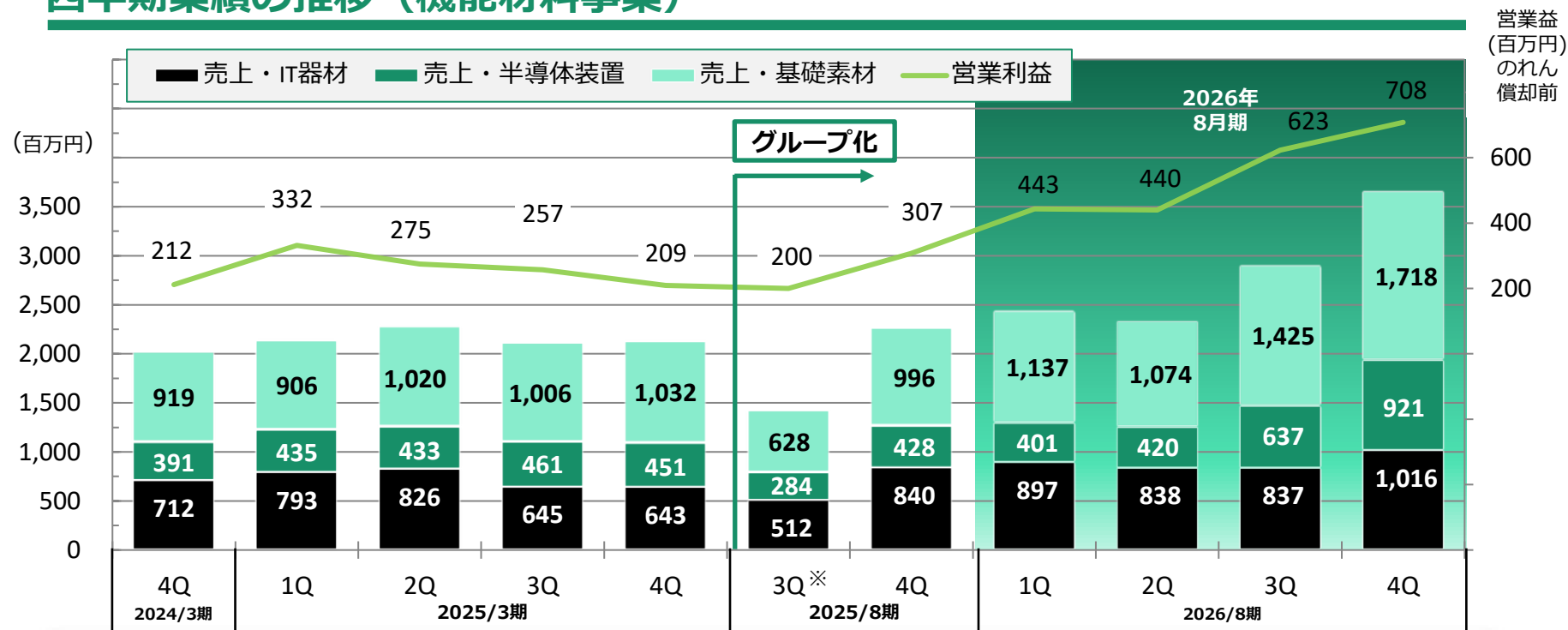
①売上高は、半導体・FPD共に増加

②損益面は売上拡大に伴い増加

- ・ 前期末比で受注損失引当金等は60百万円減少（改善）
- ・ 稼働率向上で利益率改善

3. セグメント別概況

四半期業績の推移（機能材料事業）



Point

※前期3Q売上は4月5月の2か月間の数値

IT器材

3,589百万円

- ・ CVD向け消耗材が増加加速
- ・ 超高純度のターゲット材横ばい

半導体装置部材

2,380百万円

- ・ 真空チャンバー急拡大
- ・ 過去最高の市場拡大続く

基礎素材

5,356百万円

- ・ 全般的に好調も、損益はアルミ相場上昇効果剥落

①売上高は半導体と基礎素材好調で増加

②損益面は半導体装置部材貢献で改善

- ・ 当初想定よりも全般的に好調な推移

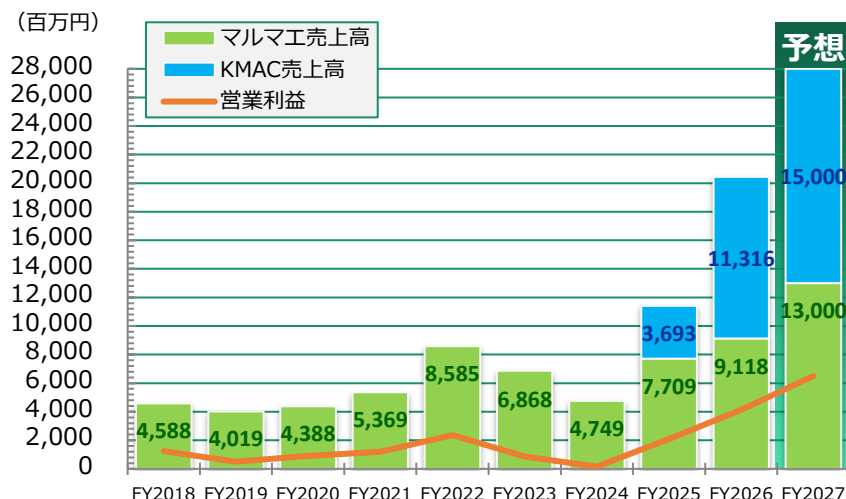
4. 2027年8月期の業績予想

来期の見通し（損益・設備投資・固定費要因）

業績予想

2027年8月期 連結業績予想	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主 に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 純利益(円) ※
第2四半期(累計)	13,800	3,100	3,000	2,100	74.03
通期	28,000	6,500	6,300	4,200	148.06

客先増産要請は非常に強いが、弊社生産能力増強ペースが追いつくか不透明なため、客先要求を完全には織り込めていない

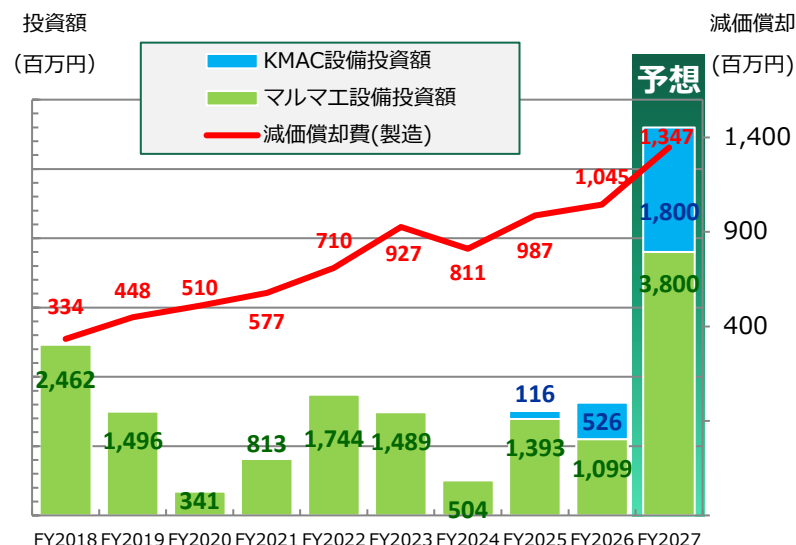


※FY2024以前は単体決算数値

※FY2025KMAC事業は2025年4月～2025年8月の数値

Point

- ✓グループ全体の半導体分野受注は過去最高
- ✓全社の半導体向け受注が生産能力を超える
- ✓顧客から長期の拡大見通し提示され増産要請
- ✓2027年後半までの導入設備を発注中
- ✓設備投資計画56億円へ増額
- ✓グループ全体の値上げ交渉ほぼ妥結



※設備投資額はFY2025までキャッシュフローベース、FY2026以降は取得ベース

※FY2024以前は単体決算数値

※FY2025KMAC事業は2025年4月～2025年8月の数値

4. 2027年8月期の業績予想

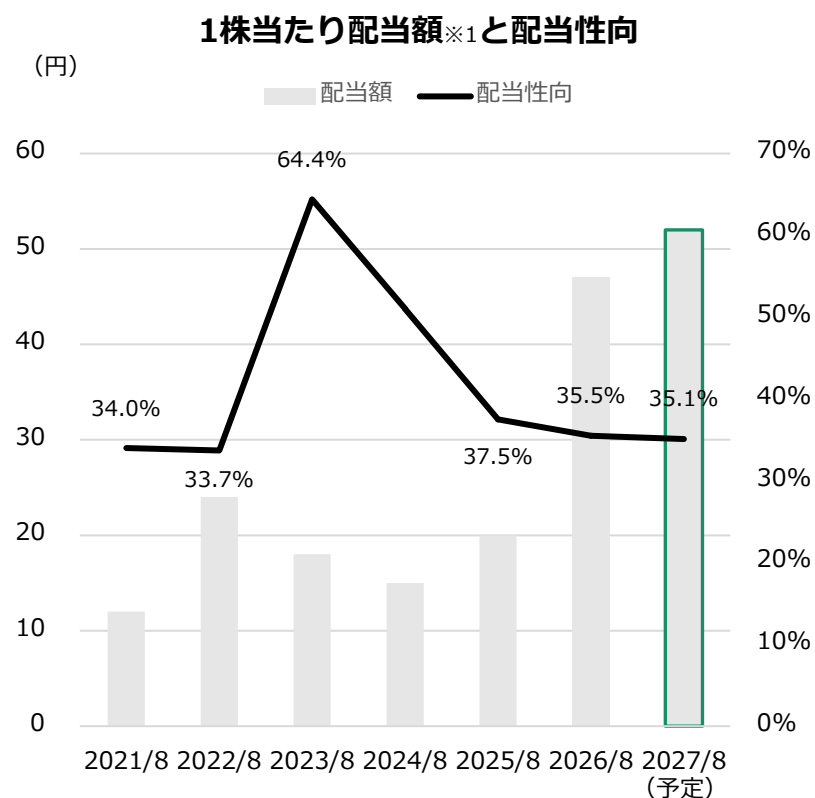
セグメント別見通し

(億円)			
売上高	2026/8期	2027/8期	Point
精密部品事業			
半導体	75.5	111.8	顧客からの増産要請に応え能力増強投資注力 生産設備の導入に伴い売上増加見込み
FPD	11.3	13.3	期を通じてOLED投資好調。上期はG6およびG8、下期はG6中心
その他	4.4	4.9	生産能力に余力無く、半導体とFPD以外は停滞
合計	91.2	130.0	
機能材料事業			
IT器材	35.9	33.4	不安定なターゲット素材の下期減少を見込む 低利益率案件の選別進める
半導体装置部材	23.8	55.1	顧客の増産要請に応じ、設備投資と人員増員 生産能力増強に合わせた売上増加見込む
基礎素材	53.5	61.5	HDD向けとコンデンサ向けは高水準続く。下期は小口素材の減少見込む
合計	113.2	150.0	
(億円)			
セグメント利益	2026/8期	2027/8期	Point
精密部品事業	23	39	上期は半導体分野の過去最高水準が続き業績をけん引。下期は一段高見通し。人員増強急ぐ。生産設備納期の長期化がボトルネック。
機能材料事業※	18	26	上期は半導体顧客の要望強くも人員調達ボトルネック。下期は生産設備強化と人員増で増益見通し。IT器材のMIX悪化で利益率改善少ない見込み
合計	41	65	

5. 2027年8月期の配当予想

配当

配当等 実績と予定



※1 2026年4月1日付で実施した株式分割(1:2)を反映して修正済み

配当政策

- 中期事業計画で35%以上の配当性向を予定
- 最低配当額 年30円(半期15円)から株式分割に伴い、年15円(半期7.5円)

株主優待

- 200株を半年以上継続保有の株主様へオリジナルQuoカード2,000円分提供

株式分割に伴い、2026年4月1日以降は200株以上の継続保有が必要になりますのでご注意ください

今期及び来期配当

- 2026年8月期は中間19円※1、期末28円の配当
- 2027年8月期は中間26円、期末26円の配当予定
- 企業成長に向けた投資と適度な資本効率を目指す配当政策を行っていく方針

6. 中期事業計画

中期事業計画 「Fusion2028」

2026年8月期～2028年8月期

6. 中期事業計画

グループ経営方針 「素材と加工の技術力で社会に貢献する」

グループ中期経営戦略

A.新素材・新技術の創出で顧客ニーズを取り込む

半導体製造工程のクライオエッチングに必要な低温対応素材の開発や、絶縁性の高いコーティングの開発を進める（主にKMAC）

B.消耗品受注拡大で安定成長を狙う

エッチング装置やCVD装置において、真空中で使用される高付加価値な消耗品であるESCや電極類の生産に必要な技術力を高め、受注を拡大する。結果として、半導体設備投資のみに左右されず、安定成長できる経営を目指す

C.グループ全体で、市場ニーズにマッチした設備投資でシェア拡大を狙う

6. 中期事業計画

修正数値計画（連結）※2026年8月21日取締役会承認

中期事業計画 Fusion2028

数値目標
（連結）



売上高 **320**億円

営業益

82億円

営業利益率
（セグメント別）



精密部品事業 **32%**

機能材料事業

20%※1

ROIC



連結ROIC目標 **25%**

配当性向



配当性向 **35%**
以上

最低配当額

年間
15円※2

※1 機能材料事業の営業利益率目標はのれん等償却後

※2 半期最低7.5円 また、通期最終損益赤字時は再検討

6. 中期事業計画

投資計画

2027年8月期設備投資額を56億円に増額

マルマエ

38億円

- 機械設備 33億円
- その他設備 5億円
- 工場等の新設は無し
- 中計数値目標の前倒しに合わせ
2028年までの設備投資計画を前倒し
- 主に半導体分野消耗品向けに投資

KMアルミニウム

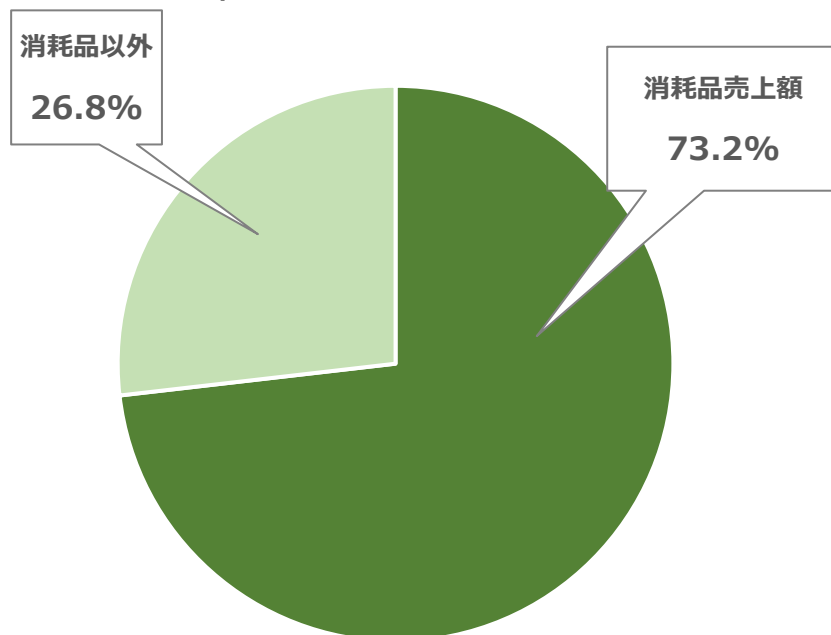
18億円

- 生産設備 7億円
- 新工場 6億円
- 工場改修 5億円
- 主にアルミ鋳物生産能力増強および
機械加工設備の拡充

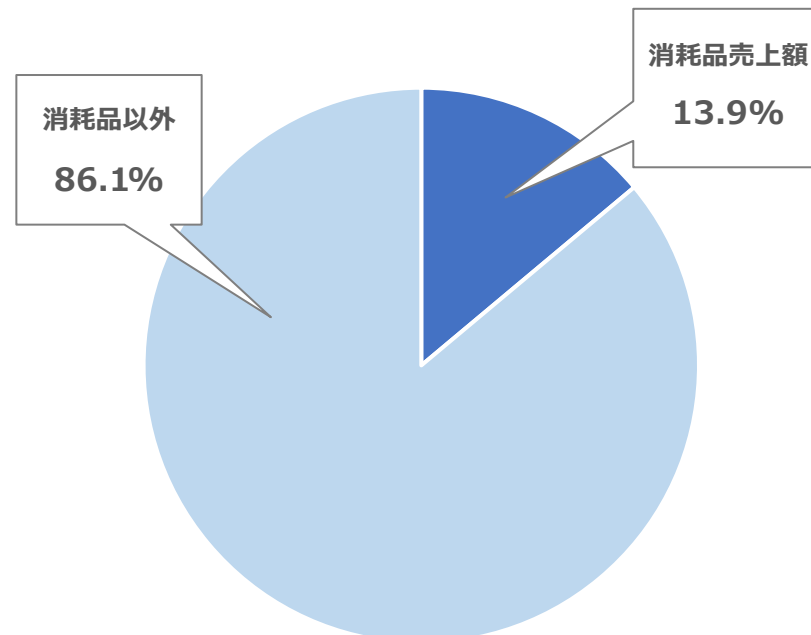
6. 中期事業計画

消耗品受注拡大で安定成長狙う ※本数値は精密部品事業のみ

2026/8期 半導体分野



2026/8期 FPD分野

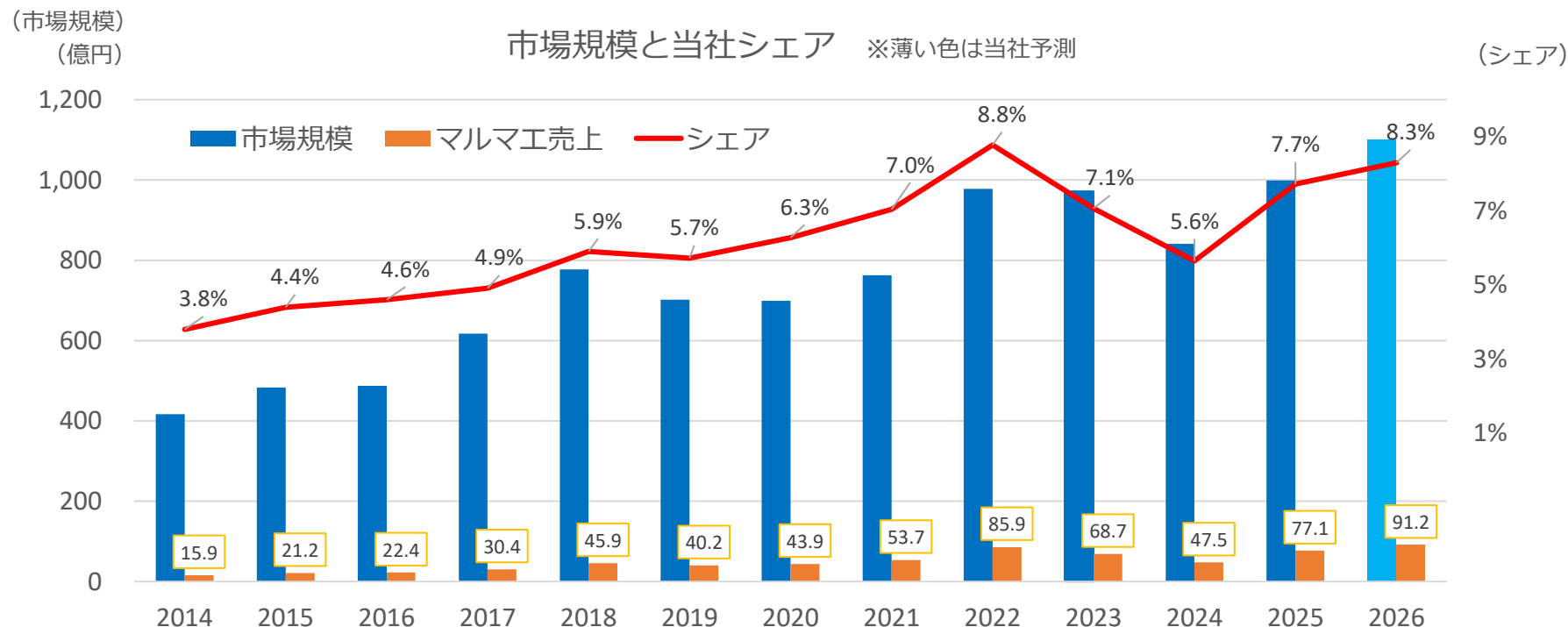


安定化戦略

半導体分野消耗品比率は新規装置部品の拡大もあり横ばい
FPD分野では新規装置向け部品の増加で比率停滞

6. 中期事業計画

当社の属する市場とシェア推移



成長性

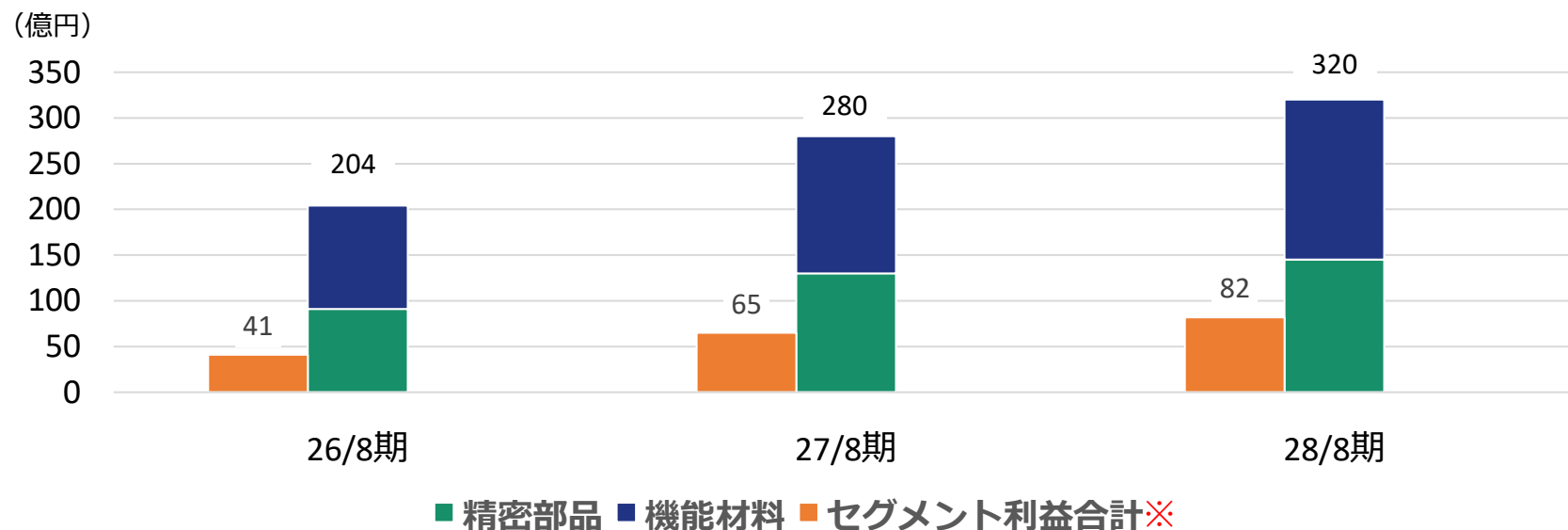
※当社シェアは精密部品セグメントのみの数値です

- ✓ 当社の属する市場は2022年まで拡大後に、中国レガシー投資以外は停滞したが、2025年以降急拡大
- ✓ 当社は先端向けが多く、'23年～'24年のシェアを落としていたが、2025年以降はシェア1位に復帰

- ・本項の市場規模データは、当社と類似した半導体とFPD製造装置の真空パーツを生産する企業で、当社が認識する一部（当社含30社）の企業について、各暦年に属する決算期末ごとの売上高を調査機関の情報を基に集計したものです。
- ・2026のデータは、決算月の違いから現時点でデータ未開示（未確定）の会社については、各社の事業環境をもとにした当社予測値が含まれます。

6. 中期事業計画

セグメント別目標



決算期	26/8期	28/8期
売上高（精密部品）	9 1 億円	1 4 5 億円
セグメント利益（精密部品）	2 3 億円	4 7 億円
売上高（機能材料）	1 1 3 億円	1 7 5 億円
セグメント利益（機能材料）	※ 1 8 億円	※ 3 5 億円
のれん等償却（機能材料）	4 億円	4 億円

※機能材料事業セグメント利益はのれん等償却後

7. 事業譲受について

アルバックテクノ(株)出水工場より表面処理事業の譲受

2026年8月28日に「アルバックテクノ株式会社」が保有する出水工場における表面処理事業を譲り受ける契約を締結

譲受内容	アルミ表面処理事業（出水工場のみ）		
譲受事業の売上高	264百万円（2026年6月期）		
譲受価格	非公開（外部機関評価のうえ決定）	決済方法	手元資金
譲受事業の資産	表面処理設備、機械装置、建物附属設備、工具器具備品、ソフトウェア等、表面処理関連資産一式		
事業譲受期日	2026年9月1日		
譲受の理由	■ アルバックテクノ社出水工場は、ほぼ当社製品のための表面処理を実施 ■ 一貫生産能力の強化、半導体製造装置向け表面処理の新規開発力獲得を目的に取得を決議		

今後の見通し

- 今後の連結業績への影響は軽微。売上高への影響は無く、外注加工費の減少及び固定費の増加が見込まれる
- 発生するのれん等の金額は現在精査中。影響は軽微となる見込み
- 開示すべき事項が生じた場合は速やかに公表予定

8. サステナビリティ

6つのマテリアリティを財務インパクトで評価し、中期事業計画Fusion2028に接続

攻め | 収益力を高める

1

技術融合による高付加価値・消耗品ビジネスの拡大

指標：消耗品売上比率（半導体分野 73.2%）

2

生産性・資本効率を軸とした持続的成長モデル

指標：連結ROIC／一人当たり限界利益

3

複数の基盤技術を活かした事業ポートフォリオの高度化

指標：クロスセル売上高／特定顧客依存度の低減

守り | 事業のレジリエンスを高める

4

資源循環・環境負荷低減への対応

指標：グループGHG Scope1・2・3／2040年ネットゼロ

5

技術・技能の継承と人材・組織基盤の強化

指標：重大災害0件／エンゲージメント／育休取得率75%以上

6

グループ経営・ガバナンスの高度化

指標：情報セキュリティ重大インシデント0件／グループBCP

財務インパクト

中長期的な企業価値の向上

主要指標への影響

営業利益率 ↑

ROIC ↑

業績の変動 ↓

Fusion2028 目標（2028年8月期／2026年8月改定）

320 億円

連結売上高

82 億円

連結営業利益

25%

連結ROIC

長期目標

2030年

Our Vision 2030

中計目標の変更に伴い再検討中

2040年

ネットゼロ

グループGHG排出量 Scope1・2・3

推進体制

ESG委員会（毎月開催・委員長＝社外取締役）がKPI進捗と全社的リスクを審議し、取締役会へ毎月報告
2026年3月よりKMACが正式参画し、グループ一体で運用

※消耗品売上比率はマルマエ単体

8. サステナビリティ

強みにつながる人材育成

人と技術 | 採用 → 定着 → 育成

善い人を採用し、その人たちに定着してもらい、継続的に育てていく。
その循環を回し続けることで、強みである技術力の向上につながります。

従業員数

654名

グループ従業員（8月末）
前期末595名から+59名

KMACも能力拡大に向け増員

定着

2.67%

正社員離職率
全国平均13.7%
（前期2.67%）

社員食堂を開設
（2025年11月）
地方で採り、辞めない
職場へ

育成

77名

エンジニア（マルマエ）
前期75名 → 2030年100名

試作力が新規受注を生む
KMACへ加工機を移設
し技術交流

顧客に選ばれ続ける条件

主要顧客の調達基準（情報セキュリティ・事業継続・環境）を満たし続けることが、受注継続の前提

0件

情報セキュリティ
重大インシデント
（2024～26年）
ISO27001（本社）

+31%

太陽光発電量（前期比）
1,439→1,892MWh

■ グループ全社リスク管理を本格運用
（2026年6月～、KMAC含む）
事業継続性を高め、資本コストを抑える

■ 環境
昼の太陽光を夜間にも使えるよう蓄電池を導入
（2025年12月に20kWh稼働、730kWhを着工中）
エネルギーコストを抑え、2040年ネットゼロを目指す

財務指標

一人当たり限界利益（連結） **1,753万円**
人を増やしなが、一人当たりの付加価値も向上

※従業員数は派遣社員を除くグループ合計。正社員離職率・一人当たり限界利益（派遣社員含む）はグループ連結。全国平均は厚生労働省「雇用動向調査」。

私達は持続可能な経営を念頭に
技術で社会貢献できる企業を目指します

Company Profile

marumae

- 1988年 ● 10月 マルマエ工業有限会社設立
- 1992年 ● T'sM'sR&D創業
オートバイ部品製造
現在のマルマエ事業
- 1997年 ● 10月 R&D事業部として
マルマエに合流
- 2001年 ● 4月 株式会社マルマエに改組
- 2004年 ● 11月 グリーンシート銘柄指定
- 2006年 ● 12月 東証マザーズ上場
- 2018年 ● 12月 東証一部指定
- 2022年 ● 12月 東証プライム移行

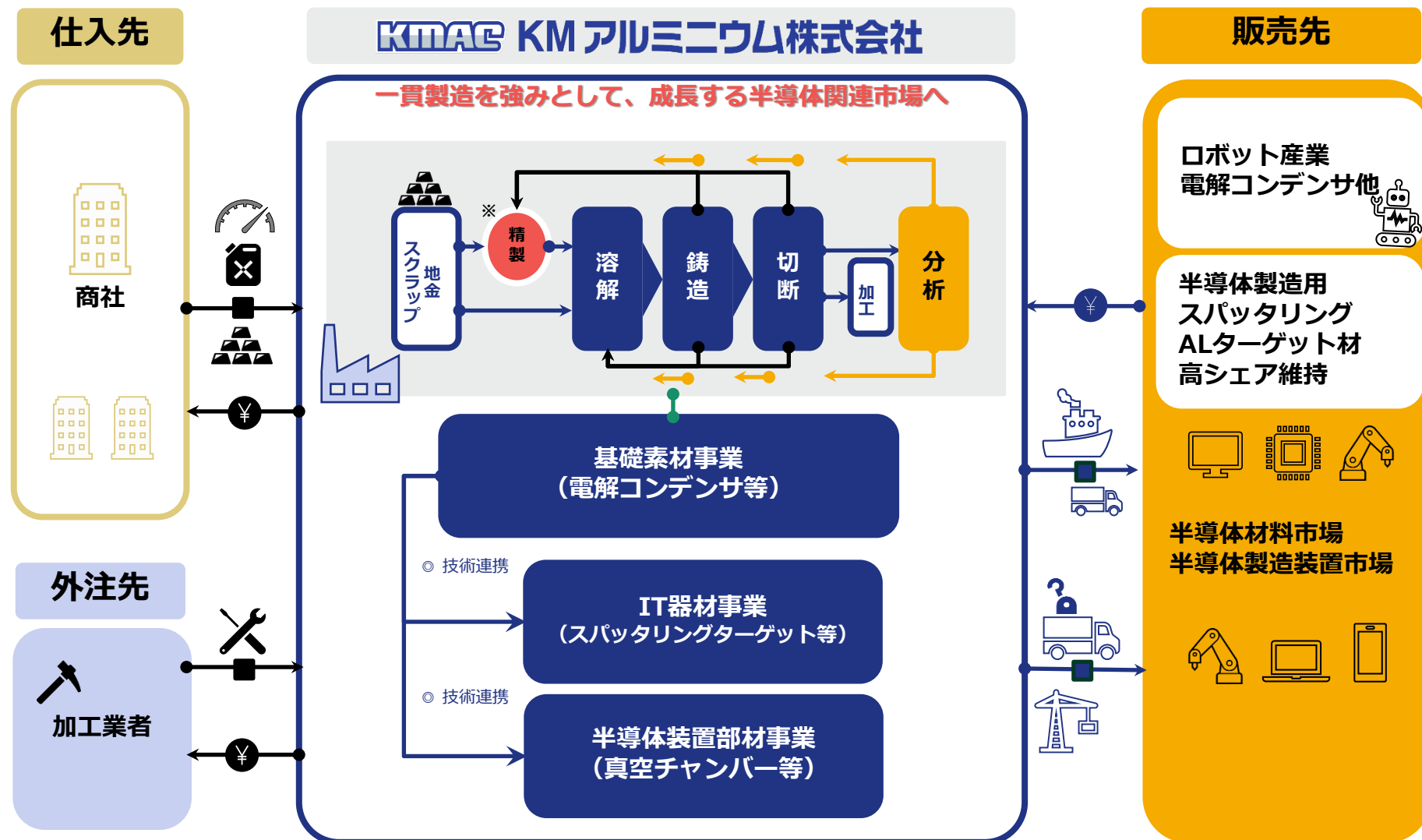
KMAC

- 1989年 ● 2月 三井アルミニウム工業(株)鋳造部門を
三井グループの出資でスピンオフ
九州三井アルミニウム工業(株)を設立
- 1997年 ● 9月 アルマイトクリーンルーム完成
- 2006年 ● 12月 超高純度（5N）工場完成
- 2007年 ● 6月 鋳物チャンバー用
「鋳物第3工場」完成
- 2015年 ● 三井グループから
ケイエムジェイホールディングス2(株)へ株式譲渡
KMアルミニウム(株)へ商号変更

2025年4月
グループ化

機能材料（KMAC）事業モデル

永年の一貫製造で培われた総合力・シナジーを背景に、成長する半導体関連市場へ



※精製（純化）技術・・・偏析法的一种であるベシネー法により、アルミニウムの純度を上げる世界でも有数の技術。

機能材料（KMAC）事業モデル

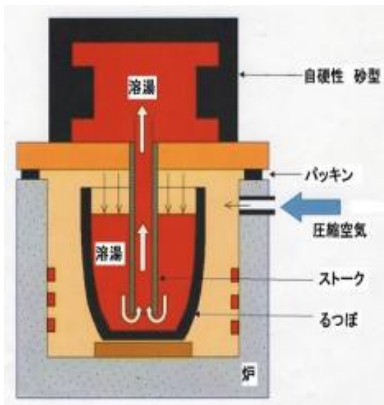
永年の一貫製造で培われた総合力・シナジーを背景に、成長する半導体関連市場へ

半導体向け真空チャンバー当社の優位性

背景

- 装置大型化とチャンバー搭載数増加
- 一般的に切削チャンバーは歩留り低くコスト高

低圧鑄造技術を駆使し
低コスト且つ高品質の鑄物製品供給



【低圧鑄造の仕組み】

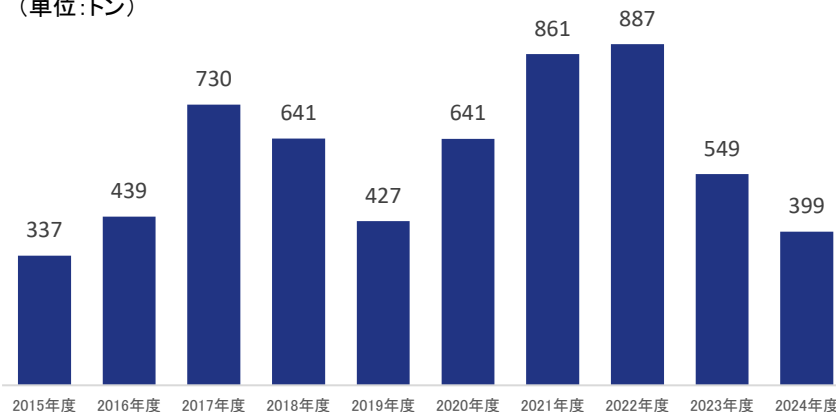
- ① 素材からの一貫製造を行っているため大型溶解炉・鑄造炉等の設備・インフラ保有
- ② 成分分析ノウハウを活用し、鑄物用合金を開発
- ③ 素材製造で培った溶湯管理技術

技術

- KMACでは、400kg以上の大型低圧鑄物製品の提供が可能！！

KMAC真空チャンバー販売量推移

(単位:トン)

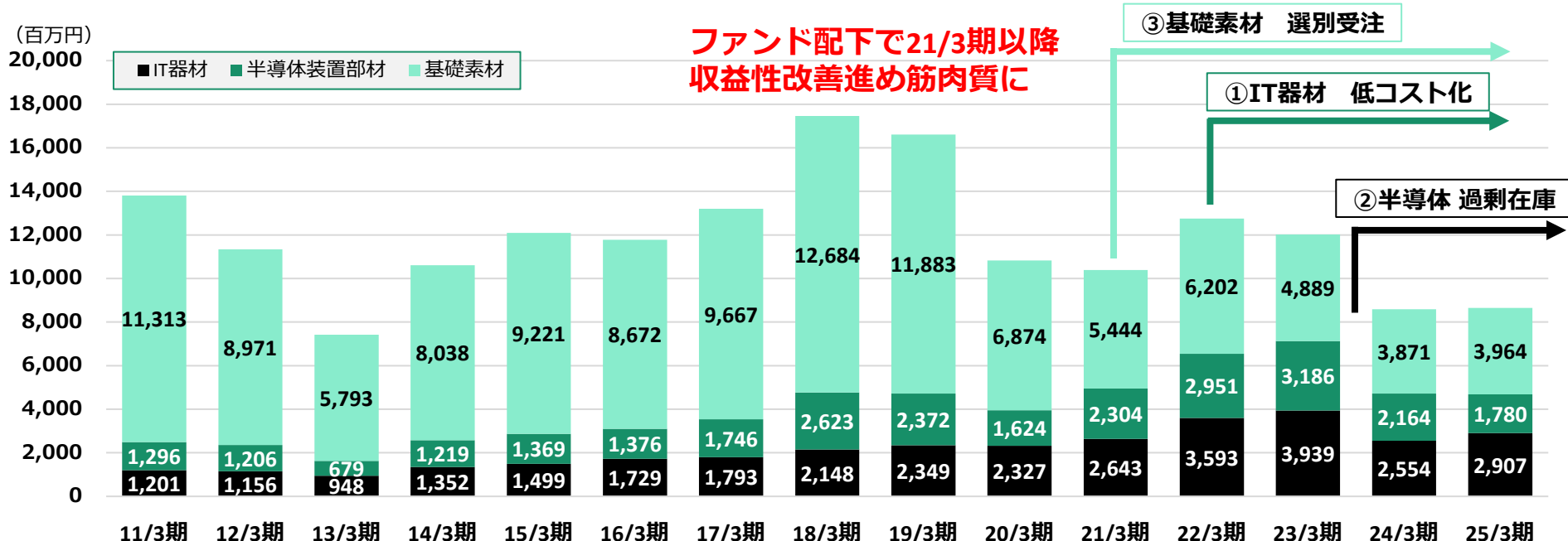


KMAC

近年は半導体市場の急拡大に加え、
シェア向上で業績急拡大
今後は、同業他社の能力増強が遅れる中で、生産能力拡大を急ぎ、さらなるシェア拡大を狙う

機能材料（KMAC）事業 過年度業績

業績推移（機能材料事業）



Point

IT 器材

- 自社精製強化で競争力強化** 高収益
- 主にターゲット材向け消耗材
 - 22/3期以降の低コスト活動で高利益率化

半導体 装置部材

- WFE市場に連動** 高収益
- 主に半導体エッチング装置の真空チャンバー
 - 24/3期以降は客先過剰在庫の影響続く

基礎 素材

- 戦略的に低付加価値受注を低減** 基盤
- 現在は主に電解コンデンサ用やハードディスク用高純度アルミ。アルミスラブ材の小口販売も行う
 - 2021年以降の市況停滞期に選別受注本格化

精密部品（マルマエ）事業モデル

顧客の主要工程・主要製品

当社製品は半導体・FPD製造装置の心臓部を支えています



主要工程（半導体）

エッチング
CVD
コータ/デベロッパ
洗浄

（FPD）

エッチング
CVD
コータ/デベロッパ
スパッタ
洗浄
イオン注入

主要製品

真空チャンバー
シャワーヘッド
排気板
静電チャック
ヒーター類
上部電極
ターゲット
搬送系パーツ類
各種真空パーツ類

※画像はイメージです

参考資料（会社概要）

会社名	株式会社マルマエ（Marumae Co., Ltd.）	
設立	1988年10月	
資本金	35億21万円（2026年8月31日現在）	
代表者	代表取締役社長 前田 俊一	
連結子会社	KMアルミニウム株式会社	
総従業員数 （連結）	654名（2026年月8月31日現在） 他 派遣社員62名	
グループ 所在地	出水事業所 （本社）	〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地
	高尾野事業所	〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保 3816番41
	関東事業所	〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
	KMアルミニウム 株式会社 （本社 工場）	〒836-0067 福岡県大牟田市四山町80番地
グループ 事業内容	株式会社マルマエ	
	・精密機械、精密機器の設計、製造、加工、組立	
	・精密機械部品の設計及び製作	
	・産業及び医療機械器具の設計、製造、販売	
	・精密機械部品及び機械装置の点検、修理	
	・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事	
	・運送業務 ・不動産の賃貸	
	KMアルミニウム株式会社	
	・アルミニウムのインゴット、ビレット、スラブ、合金の製造・販売	
	・高純度アルミニウム地金の製造・販売	
	・建具・板金工事業	
	・前各号に付帯関連する一切の事業	

発行済株式総数		28,423,200株
単元株式数		100株
株主総数		20,736名
大株主 （普通株式）	前田 俊一	8,011,416株
	日本マスタートラスト信託銀行 株式会社（信託口）	1,957,100株
	前田 美佐子	1,008,000株
	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) （常任代理人）	959,769株
	株式会社日本カストディ銀行 （信託口）	579,900株
	MORGAN STANLEY & CO. LLC （常任代理人）	562,319株
	NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB) （常任代理人）	537,400株
	前田 良子	360,000株
	五十嵐 光栄	338,000株
	JPMSPLC CLIENT ASSETS CL JPY （常任代理人）	262,000株
（注）自己株式が55,525株あります。 （2026年8月31日現在）		

注意事項

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、当グループ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様に当グループの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など直接的な投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当グループは一切責任を負うものではありません。

お問い合わせはこちら

株式会社マルマエ 管理本部管理部人事・企画課 IR担当

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151

Mail ir@marumae.com

▲ 出水事業所

〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地

<https://www.marumae.com/index.html>

道を究め、未知に挑む。

MARUMAE



道を究め、未知に挑む。

marumae

